

令和7年10月21日

南の風 For Junior202

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の続き、トランジションディフェンスについてです。今回は、2のディフェンスリバウンドを取られたときのシチュエーションを書きます。

ディフェンスリバウンドを相手に取られたときは、速攻をケアしますが、最初にやることは「**タグアップ**」です。リバウンドを取られてしまったときは、必ずタグアップしましょう。タグアップとは、ディフェンスリバウンドを取られたときに、すぐハリーバックしてしまうのではなく、**取られた相手に張り付き、タッチダウンパスやアウトレットパス、ドリブルアウトレットを簡単に許さないこと**です。速攻の第一段階を抑えることです。相手に手間を掛けさせてボール運びを遅らせることです。ここをしっかりやらないと、得点される確率は格段に上がってしまいます。

リバウンドを取られたボールマンにタグアップする選手以外は、コミュニケーションしながらハリーバックします。特にセフティーマンは、前号の1で書いたようにフォームを目指して戻ります。戻りながら指示したり、コミュニケーションしたりして危険な相手プレーヤーを抑えます。アウトナンバーにならずマッチアップすることができるようにしましょう。ここでの状況判断は1の場合と同じです。

タグアップの練習は取り上げてやるのが大事（やり方を理解することや反復練習）ですが、3on3やゲーム形式の練習の中で繰り返すことが大切です。

取り上げて行うときのタグアップのドリルを一つ紹介します。

リングに向かってトップ（フリースローラインの中央辺り）に1人、左右ウイングのペイントの外側辺りにそれぞれ1人を配置します。ディフェンスはそれぞれ内側に、1人ずつスクリーンアウトするように準備して付きます。コーチ役がペリメーター（3Pラインとペイントラインの間）からシュートします。その瞬間、ディフェンスはスクリーンアウトします。タグアップするオフェンスは、スクリーンアウトされた相手にボディアップします。ボールを取ったディフェンスに対するタグアップは、張り付いてアウトレットパス、アウトレットドリブルを阻みます。（あるいは遅らせます）これを徹底します。他のタグアップした味方は、自分のディフェンスにリバウンドボールが来ないことが分かった瞬間に、そのままマッチアップするか、ハリーバックするかを判断します。判断基準としては、リバウンドボールを取ったボールマンの意図を読むことです。例えば縦にパスしようとしているのであれば、ハリーバックして、一刻も早く危険なプレーヤーにマッチアップします。このとき当然ですが、セフティーマンとのコミュニケーションが欠かせません。なぜなら危険度の高いプレーや相手選手をピックアップすることが極めて重要になるからです。タグアップすることだけを取り上げるか、この後の流れまでドリルに組み入れるかはコーチの判断になります。ぜひ取り組んで見てください。

最後に、3のターンオーバーが起こったときについてです。このときは臨機応変に対処するしかありません。ターンオーバーは予期し難いことなので、まずは相手ボールマンに一番近い味方がボールの進行を止めます。他の味方は、ハリーバックしてフォームを守ること、危険なプレーヤーに素早くマッチアップすることで、オフェンスにできる限り手間を掛けさせるようにします。 次号にします